

農作物の当面の技術対策について

令和4年4月22日
農業技術課

<天気概況>

甲府地方気象台の週間天気予報によると、来週は気圧の谷や湿った空気の影響で雲が広がりやすく、気温は平年並か平年より高く、降水量は、平年並か平年より多い見込みとなっています。

今後の気象情報に注意し、農作物の管理には注意して下さい。

<気象予報> 甲府地峡気象庁 4月22日1時発表 週間天気予報 4/22~29

山梨県の天気予報（7日先まで）								
2022年04月22日11時 甲府地方気象台 発表								
日付	今日 22日(金)	明日 23日(土)	明後日 24日(日)	25日(月)	26日(火)	27日(水)	28日(木)	29日(金)
山梨県	晴 	晴後時々曇 	曇一時雨 	曇時々晴 	曇時々雨 	曇一時雨 	曇 	曇一時雨
降水確率(%)	-/-/0/10	10/10/10/10	50	30	70	50	40	50
信頼度	-	-	-	B	A	C	B	C
甲府 気温 (°C)	最高	29	24 (21~27)	29 (26~31)	24 (22~27)	25 (23~29)	25 (23~28)	22 (20~28)
	最低	-	14	16 (13~18)	15 (13~17)	16 (15~19)	19 (17~21)	16 (13~19)
向こう一週間（明日から7日先まで）の平年値								
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温		
甲府	平年並 5 - 18mm			10.4℃		22.6℃		

1 果樹

<共通>

○曇雨天が続くと病害の発生が心配されるので、防除間隔があかないように防除を徹底する。生育が遅れる場合は、前回の散布からの日数を優先して防除を行う。また、次回の散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず、降雨前に散布する。

<施設栽培（ブドウ）>

○果粒軟化期以降からは高温多湿によるムレ（果粒への結露）を抑えるため、換気が遅れないよう注意する。灰色かび病防止のため、ビニールマルチなどによりハウス内の湿度低下に努める。

<ブドウ>

○黒とう病対策として、展葉初期の防除（チオノックフロアブル）を行う。早場地域や生育促進剤の利用により展葉が進んでいる園では、べと病の防除が

遅れないように注意する。

<立木類>

- モモせん孔細菌病対策として、落花直後から7～10日間隔で防除剤（アグレプト液剤・水和剤、マイコシールド）を散布する。また、黒星病の重点防除時期でもあるため、防除を徹底する。
- モモでは、満開後20～40日頃（第1肥大期）に急激な摘果を行うと、核割れ果、変形果、生理落果の発生を助長するため段階的に行う。
- 結実が不足している樹では、側枝単位での収量調節を実施する。特に新梢が徒長しやすいため、新梢管理を徹底する。

2 野菜

- 圃場の過湿を防止するため、圃場周辺に排水路を整備する。
- 施設野菜では、曇雨天から晴天への急激な天候変化に気をつけ、適切な換気や薬剤散布を行い病害の発生を抑える。

3 水稲

- 育苗にあたっては、気象の推移に応じて、きめ細かい管理を行う。特に、保護苗代及び施設育苗においては、最低気温が10℃を下回らないようにトンネルまたはハウスの保温、被覆の徹底、水管理等に十分注意する。
- 田植後、気温の低下が予想されるときは、夜間は深水とする。

4 麦類

- 出穂前後に降雨が多いと赤カビ病が発生することがあるので、薬剤散布による防除を行う。